

ジャーナリズム・政策研究所
講義要綱（2023年度）

【法とメディア】

(火曜日・1時限講義)

竹田 昌弘

民主主義社会では、多数意見が常に正しいとは限らないので、それを批判して修正を求めたり、少数意見を尊重したりしなければなりません。人の体で言えば、多数決で国や社会を動かす公権力（立法・行政）が体全体に血液を送るポンプの「心臓」と、酸素や栄養素を体内に行き渡らせる「動脈」だとすれば、法に基づいて多数意見の誤りを正し、少数者を尊重する司法とジャーナリズムは、体内から二酸化炭素や老廃物を受け取る「静脈」のようなものだと考えています。

また、こうした仕組みには、主権者である国民の意思で定めた憲法によって公権力が暴走しないよう規律し、個人の自由と権利を守る「立憲主義」と、法が全ての権力に優越する「法の支配」が不可欠です。司法とジャーナリズム、二つを支える法とメディアを学び、さらに進んで民主主義社会の仕組みを考察します。

講義では、これまでに起きた事件や裁判のほか、現在進行形の社会問題などを通して学んでいきます。例えば、一つの事件はなぜ起きたのか、司法の判断はどのようなものだったのか、事件から社会はどんな教訓を得たのか、報道に問題はなかったのかなどを検証します。去年は、安倍晋三元首相の射殺事件とその後の旧統一教会問題に多くの時間を割きました。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。社会部次長、司法キャップなどを経て編集委員兼論説委員。つくば国際大非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）も務めた。著書『知る、考える裁判員制度』、編・共著『憲法ルネサンス』『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』など。

【学生・社会人のための出版と編集】

(火曜日・4時限講義)

下平尾直

読書や本が好きな方、自分で本や冊子を作ってみたい方、出版社に就職を希望する方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマ化されるような華やかなギョーカイ？ それとも長い「出版不況」と報道されるように暗くて地道で大変な仕事？ 意外に知らないことが多いかもしれません。

この講座では、本を企画して読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、出版業界の最新情報を織り込みながら、映像を観る、校正や広告を作成する、現役で活躍中の専門家をゲストにお招きするなどして、具体的な本づくり＝編集・出版のあれこれを学びます。

*講義内容は予告なく変更する場合があります。

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014年に(株)共和国という出版社を創業。2021年には、出版粋会「第18回新聞社学芸文化賞」を受賞。大学や出版関係の会で講師を務めることが多いのですが、この駒澤大学ジャーナ研での講義歴がいちばん長く、今年で10年目になります。

2023年3月現在、藤原辰史『ナチスのキッチン』(第1回河合隼雄学芸賞)、山家悠平『遊廓のストライキ』、池田浩士『抵抗者たち』、川島昭夫『植物園の世紀』、菅野賢治『「命のヴィザ」言説の虚構』、東直子『レモン石鹼泡立てる』など、人文書からコミックまで、ジャンルを問わず78点を刊行。編著に、武田麟太郎『蔓延する東京』、長谷川春子『踊る女と八重桃の花』など多数。共著に、『近代出版研究』(創刊号)など多数があります。

【読む・話す・理解し考える

——新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング】

(水曜日・3時限講義)

真 下 聡

前期8回：駒澤大生のための対面講義
後期8回：すべてオンライン講義
※前期・後期別々に募集します。

本講座では就活対策・就活準備を念頭に、新聞記事を使って「読む・話す・理解し考える」力を養う具体的なトレーニングを行います。

ニュースを読み活用するスキルは、就活ではマスコミ以外の多くの企業でも普通に問われています。就活を離れても、これから生き抜いていく上で必ず役に立つものです。

今年は前後期8回ずつ、別々に募集し行います。内容はほぼ同じですが、前期8回は駒澤大生のための対面、後期8回はすべてオンライン（他大学生も受け入れ）で行います。就活におけるオンライン面接は恐らくなくなることはないと思いますのでそれに慣れておく意味もあります。

メインのターゲットは大学2年・3年生のみなさんです。もちろん就活中・就活後の4年生、新入学の1年生の方が受けても意味のある内容です。

実際に行うトレーニングは、現時点では以下のものを考えています。

1. 新聞記事の読み方のコツを学んだ上で、毎回たくさん新聞記事を読みます。
2. 記事を題材にしたり共通のテーマを設けたりして、自分で考え1分間でスピーチします。
3. ニュースを題材にしたグループディスカッションを行います。
4. ニュースを活用しやすくする「縮約」にも取り組みます。

真下 聡（まっか・あきら） 朝日新聞メディア事業本部主査

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。取材記者は鹿児島での3年のみで、東京・名古屋・西部の各本社で新聞編集者を20年以上つとめた新聞編集のプロです。2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに関わり、デジタル編集長として全社のデジタル発信にも取り組みました。15年5月からの教育総合本部では、大学1年生向けの作文講座で3年間に1500本以上を読み指導。就活生向けセミナーなどでも3年間に約200本のエントリーシート添削や面接・グループディスカッションを指導しました。

23年3月まで5年間所属した朝日新聞ジャーナリスト学校では、主に社外の学生、社会人、NPO、シニアなど幅広い方々へ新聞の読み方や文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについて指導しました。22年度は朝日新聞社発行の雑誌「月刊ジャーナリズム」（今年3月号で休刊）で、駒澤大生2人を生徒役にした就活講座「スラスラES教室」を11回連載。駒澤大学ジャーナ研での講座は今年で4年目です。

【新聞編集の基礎－記事・見出しからレイアウト・写真の扱いまで－】

(水曜日・4時限講義)

眞 下 聡

この講座は、サークル活動などで実際に新聞を編集している・これから編集する方向への、実践的な新聞編集基礎講座です。取材・写真撮影、記事の書き方、見出し・レイアウト・写真の扱いなど、半期の8回でひととおり学べるようにしています。

前期・後期とも基本的には同じ構成にします(演習問題などは変える場合があります)ので、半期だけ受けても構いません。

大学に入学して新聞サークルに入部した1年生の方はもちろん、主力として活躍する2年・3年生のみなさんにも得ることの多い講座になるはずです。編集している紙面が一般紙でもスポーツ紙でも、役に立つような内容にします。

全8回の内容は、現時点では以下のようなことを考えています。

1. 新聞・新聞編集の基礎
2. 取材の仕方
3. 写真撮影
4. レイアウト・紙面割り・広告
5. 記事執筆・見出しの付け方1
6. 記事執筆・見出しの付け方2
7. 写真の扱い・トリミング
8. 紙面企画・ネット展開

※講座は深沢キャンパスの教室で行いますが、オンラインも併用しますので学外からでも視聴できます。

※実際に新聞を編集しているサークルの方は、講座で参照しますのでその新聞の pdf を提供してください。

眞下 聡 (まっか・あきら) 朝日新聞メディア事業本部主査

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。取材記者は鹿児島での3年のみで、東京・名古屋・西部の各本社で新聞編集者を20年以上つとめた新聞編集のプロです。2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに関わり、デジタル編集長として全社のデジタル発信にも取り組みました。15年5月からの教育総合本部では、大学1年生向けの作文講座で3年間に1500本以上を読み指導。就活生向けセミナーなどでも3年間に約200本のエントリーシート添削や面接・グループディスカッションを指導しました。

23年3月まで5年間所属した朝日新聞ジャーナリスト学校では、主に社外の学生、社会人、NPO、シニアなど幅広い方々へ新聞の読み方や文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについて指導しました。22年度は朝日新聞社発行の雑誌「月刊ジャーナリズム」(今年3月号で休刊)で、駒澤大生2人を生徒役にした就活講座「スラスラES教室」を11回連載。駒澤大学ジャナ研での講座は今年で4年目です。

【時事コラムを書きながら考えたこと】

(木曜日・1 時限講義)

桑 原 聡

5年前から隔週金曜日、産経新聞に「モンテーニュとの対話」という時事コラムを書いています。16世紀を生きたフランスの人文主義者であるモンテーニュの『エッセー』をよすがに、日本や世界で起こった私自身が気になってしょうがない出来事について思考をめぐらせたものです。

授業では、まずコラムを読み、なぜ私とそのテーマを選んだのか、書くにあたりどんな配慮をしたのかなど、執筆の裏話をします。そのうえで参加者のみなさんの意見を伺いながら、そのテーマについてより掘り下げていければと考えています。

一方的な講義ではありません。平等な立場で自由に意見交換をする場です。参加をお待ちしております。

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、現在は隔週で大型コラム「モンテーニュとの対話」を連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひぎにパパが読む絵本50選』『わが子と読みたい日本の絵本50選』(ともに産経新聞出版)、『〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ』(水声社)、新聞連載の「モンテーニュとの対話」をまとめた『寛容のすすめ』(海竜社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

【メディアリテラシー向上講座～事例から探るメディアのウソとホント】

(木曜日・3時限講義 ※前期のみ)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、この男性は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」

バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信される情報に囲まれています。

これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。

講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

【 企業と商品開発 】

(金曜日・2時限講義)

坂本 律行

企業は常に市場に働きかけています。つまり新しい商品・サービスのために調査を行い、市場や消費者の情報を収集し、分析し、商品コンセプトを練り上げて市場に投入しています。消費者の手に商品・サービスを届けるまでのあらゆるステップがマーケティングですが、企業のマーケティング行動についてのリアルなお話をしていきます。

COVID-19によるパンデミック、ロシアによるウクライナ侵略は企業活動に大きな影響を与えています。直接の影響だけでも、原材料の生産地を失ったり、物流がスムーズにいかなかったりと影響は大きい。

この講座では、受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、自身がそうした商品を販売しなければならない営業マンの立場であったならなど講義の中で考えてもらおうと思っています。講義の間だけ企業競争を生きてもらうつもりです。

企業が参入している市場の状況と商品開発の担当者、経営者の判断などは同じような経営判断をするとは限りません。企業に及ぼした事実などを、見てきたようにお話していきますので、大学生のみならず中高年のみなさんの期待も裏切らないはずです。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきた。1982年から通算するとマーケティングリサーチ・分析業務経験は24年。消費財メーカーでのプロダクトマーケティング経験3年／販売管理、営業企画経験が5年。株式会社坂本総合研究所代表。

【言葉で学ぶか遊ぶか～ディベート実践講座】

(金曜日・3時限講義)

石元 悠生

この講義では、書く、話す、聞く、伝えるコミュニケーションスキルの向上を目指し、自己表現のために必要な方法と技術を身につけるため、実際に受講生がディベート（模擬討論）を通じて自らの考えを他者に正確に伝達し、納得させることを学ぶことを目的にしています。多様性が問われる中で、自分とは異なる考えを持つ他者と論戦を行うことで、テーマに関わるさまざまな留意点を意識し効果的な表現に結び付け、相手との関係の中で「学び」を繰り返し行います。

講義で行うディベートは、その方法や効用を論理的に学ぶことではなく、言葉を駆使するゲームとして捉え、最初は個人対個人でできる簡単なディベートから始め、徐々にチーム同士でできるようになることを目指します。習熟度にもよりますが、最終的にはディベート実践を行っている学内や他大学のゼミやサークルとの間でディベート交流を積極的に行っていきたいと考えています。

石元 悠生 (いしもと・ゆうせい)

1967年生まれ。博士(メディア学)。早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁を担当し、編集委員やWebニュース編集長を務める。コロンビア大学東アジア研究所客員研究員を務めた後、東京都知事特別秘書として2020東京五輪招致活動に携わる。杉並区基本構想審議会委員や茨城県石岡市政策アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」(成文堂)、共著に「無責任の連鎖 耐震偽装事件」(産経新聞出版)などがある。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。

【今、改めてテレビドキュメンタリーの背骨を考える】

(金曜日・4時限講義)

新山賢治

テレビの衰退が当たり前のように承認され、中でも視聴率の伸びないドキュメンタリーの枠が減っている。動画配信が大きな存在を占めていく中で、テレビドキュメンタリーを見たことがないという若者も多い。その中で、この講座は1950年代、テレビが誕生して以来、営々と制作者の情熱が注ぎ込まれてきたテレビドキュメンタリーを鑑賞し、そこに込められた時代のメッセージ、それが今の時代にどのような影響をあたえているかを確認したい。

今年度は、日本に限らず、世界のテレビドキュメンタリーを対象を広げ、テレビドキュメンタリーが時代をどう映してきたのか、現在の動画配信とどう違うのか、その利点、さらに弱点について議論しながら考察していきたい。

新山 賢治 (しんやま・けんじ)

1953年山口県生まれ 1977年日本放送協会近畿本部報道部入社。その後、報道局ディレクター、NHKスペシャルプロデューサーを経て、制作局長、理事、NHKエンタープライズ制作本部プロデューサー、現在は企画舎GRIT代表。2017年度「NHKスペシャル インパール 戦慄の記録」で芸術祭優秀賞、2018年度「劇場版 8Kで解き明かすからだの中の宇宙」で科学映像技術祭内閣総理大臣賞を受賞

2023年度 ジャナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00～14:20	法とメディア (竹田昌弘)		時事コラムを書 きながら考えた こと (桑原聡)	
2 時限目 14:50～16:10				企業と商品開発 (坂本律行)
3 時限目 16:30～17:50		読む・話す・理 解し考える —新聞記事を活 用し就活を視野 に入れたトレー ニング (真下聡)	【前期のみ】 メディアリテラ シー向上講座～ 実例から探るメ ディアのウソと ホント (玉手義朗)	言葉で学ぶか遊 ぶか～ディベ ート実践講座 (石元悠生)
4 時限目 18:00～19:20	学生・社会人の ための出版と編 集 (下平尾直)	新聞編集の基礎 (真下聡)		今、改めてテレ ビドキュメンタ リーの背骨を考 える (新山賢治)

【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）です。

前期・・・5月16日（火）～7月14日（金）

後期・・・9月19日（火）～11月17日（金）

※6月13日(火)～16日(金)、11月1日(火)～3日(金)、11月7日(火)は休講です。

【開講方式】

令和5年度は基本的に対面にて開講。講師によりオンラインにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはZoomでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、wifi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。



*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/mass-communication/lecture-guidance.html>